

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

メロスは、単純な男であった。買い物、背負ったままで、その王城に入っていた。たちまち彼は、巡邏の警士に捕縛された。調べられてメロスの懐中からは短剣が出てきたので、辱しが大きくなってしまう。メロスは、王の前に引き出された。

「この短剣で何をやるつもりであったか。言え！」暴君アオニスに静かに、けれども威厳をもって問いつめた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった。

「何を悪者の手から救ったのだ？」とメロスは悪びれず答えた。「おまえが？」王は、微笑した。「しれたないやーじや。おままだは、わしの罪が分かるか？」

「言え！」とメロスは、いきり立つて反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが、正当な心構えなのだ、わしに教えてくれたのは、おまえだ。人の心は、当てにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしは、平和を望んでいるのだ。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、自分が平和だ。」

「黙れ！」王は、さっと顔を上げて叫んだ。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人の心はわらの奥底が見えていてならぬ。おまえだ。今、はりつけになつてから、泣いておびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王は正しい。うめはれているが、私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、「ただ、私に助けをかけた

いつもりなら、延期まで三日間の日限を与えてください。たった二人の王に、牽主を持たせてやりたいのです。三日のうち、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰つてきます。」
「はかな」と暴君は、しわがれた目で低く笑った。「とんでもないことを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくるのか？」
「そうです。帰ってくるのです。メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いて、どう私が逃げてしまつたら三日目の日暮れまで、ここに帰つて来なかつたら、あの友人を絞め殺してください。頼む、そうしてください。」
それを聞いて王は、残虐な気持で、さっとほくそ笑んだ。生意氣なことを言わうい、どうせ帰つてこないにきまつている。このさつにだまされたがかりで、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を三日目殺してやるのも気がいい。人は、これだから信じてくれぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を確保してやるのだ。世の中、正直者がかいうやばらにうんざりしてやうい。三日目には日暮れまでに帰つてこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちつと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやうぞ。」
「なに、何をおっしゃる。」
「は、命がだいじだったら、遅れてこい。おまえの心は、分かっているぞ。」
メロスは悔しく、じだんだん踏んだ。ものも言いたくなくなった。
竹馬の友、セリヌティウスは、深夜、王城に召された。暴君アオニスの面前で、よき友とよき友は、二年ぶりに相会つた。メロスは、友に一切の事情を語つた。セリヌティウスは無言でうなずき、メロスをひどく抱き締めた。友と友の間は、それによかつた。セリヌティウスは、細打

たれた。メロスは、すぐに出發した。初夏、満天の星である。
(大塚裕一「走れメロス」より)

(1) 線①「メロスは、単純な男であった。」とありますが、それが分かるメロスの行動が書かれた一文を抜き出し、(5) 最初の五字を書きなさい。

(2) 線②「その王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった。」とありますが、その表情には王のどのような心が表れていますか。文中から二字で抜き出さない。(5)

(3) 線③「おままだは、は誰ですか。文中から漢字一文字で抜き出さない。(5)

(4) 線④「人の心は、……信じては、ならぬ。」という王に対するメロスの信条(考え)を、文章中のメロスの言葉から十八字で抜き出さない。(10)

(5) 線⑤「瞬時ためらい」とありますが、このときのメロスの気持ちとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。(10)

ア 命乞いなどしなうと言つてすぐに、三日の日限を与えてくれというの、王に未練がましと思われぬやうと遠う気持ち。
イ 只である自分が可に行つたまま帰つてこないと妹が心配するやうから、身代わりをセリヌティウスが引き受けてくれるやうかと心配する気持ち。
ウ 僅か三日の日限で、無事に戻つてこれるやうかと、不安に感じる気持ち。

(6) 線⑥「逃がした小鳥」とは、誰をたとえた表現ですか。文章から抜き出さない。(10)

(7) 線⑦「なに、何をおっしゃる。」と言つたときのメロスの気持ちを「卑劣」「憎む」という言葉を使って、二十字以内(まじりかた)に書きなさい。(15)

(8) 線⑧「よき友とよき友は、二年ぶりに相会つた。」について、次の各問に答えなさい。(各10)

1 彼ら二人が幼い頃からの友であることが分かる言葉、文章から四字で抜き出さない。

2 彼ら二人が強い信頼関係で結び付いている様子を、最もよく表している一文を文章中から抜き出し、最初の十字を書きなさい。

(9) 線⑨「満天の星」は、メロスのどのような心情を象徴していますか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。(10)

ア 悲しみ イ 純粋な思い
ウ 悔しみ エ 穏やかな思い

(10) 王の心の中でつぶやいた部分を文章中から抜き出し、初めと終わりの四字を書きなさい。(10)

読解

(1) 直後の文の行動からメロスの単純な性質がうかがえる。ここでの「単純な」とは、真つすぐで、物事を深く省みない、純粋な性質のこと。「買い物、背負つたままで」という表現からも、躊躇せず王城に向かったことが分かる。蒼白な顔や眉間に刻まれた深いしわからは、王の、孤独で人を信ずることができない心が読み取れる。

(3) 「おままだは」とは、「王は、民の忠誠をさえ疑つておられる。」というメロスの批判を受けての発言である。

(4) 「悪徳」とは、道徳に反する精神のことで、この言葉を含む一文が、メロスの信条を表している。

(5) メロスは、ここで妹の結婚式を挙げる猶予を願い出れば、「命乞いなど決してしない」と言つたのに、命に未練があると王に誤解されるに違いないと思、「瞬時ためら」つたのである。

(6) 王は、メロスが三日間の猶予を願い出たのを、命を助かりたいがための口実であると思ひ、「逃がした小鳥」にたとえたのである。

(7) メロスは、わざと遅れてくるやうに卑劣な行為をそそのかす王に憎しみを覚えたのである。

【要】卑劣で憎むべきことをしたくない気持ち。(19字)
(メロスの憎しみが、卑劣なことを考えた王に向けられていることを説明する。)

(8) 1 「竹馬の友」は、幼い頃からの友達の意味。
2 メロスのために王の人質となるセリヌティウスが「無言で」うなずいたことから、強い信頼関係で結ばれている二人の様子がうかがえる。

(9) (8)と併せて考える。「満天の星」は、強い信頼関係で結ばれている二人や、友の信頼に応えようとするメロスの純粋な心を象徴していると解釈できる。
(10) メロスに三日間の猶予を懇願された後、卑劣な策を弄しながら王が心の中でつぶやいている言葉を探す。

必修問題 (3)

100 15分 163

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山賊たちは、ものも言わず、手に提綱を振り上げた。メロスはひよいと、体を折り曲げ、飛鳥の如く身近の一人に襲いかかり、その提綱を奪い取って、

た運命のなかにあきれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を、欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だって、唯い疑念の雲を、お互い胸に宿したことはない。今だって、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがたう、セリヌンティウス。よくも私を信じてくれた。それ

(1) 線①「愛する友」、②「おまえ」は、それぞれ誰を指していますか。文章中から抜き出さない。(5点×2)

(2) 線③「希代の不信の人間」とは、どのような人間ですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から抜き出さない。(5点×2)

(3) 線④「真紅の心臓」は何を象徴(表現)していますか。文中から四字で抜き出さない。(10点)

(4) 線⑤「私は、よくよく不幸な男だ」とありますが、それを感じたときのメロスの気持ちとして適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

(5) 線⑥「ああ、もう、どうでもいい」と言ったメロスの心を表している言葉を、これより前の部分から七字で抜き出さない。(10点)

(6) 線⑦「暗い疑念の雲」とは、何をたとえていますか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

(7) 線⑧「私は急に急いでこまて来たのだ」とありますが、「こまて来」るまでにメロスが努力したことをまとめた次の表の□に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使ってそれぞれ書きなさい。(6点×4)

Table with 4 columns and 4 rows. Column 1: 川の頂上. Column 2: □. Column 3: □. Column 4: □. Row 1: □. Row 2: □. Row 3: □. Row 4: □.

(8) 線⑨「王は、独り合点して」とありますが、王はどんなことを「合点」するのですか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。(6点)

(9) 線⑩「悪徳者として生き延びてやろうか」とありますが、「悪徳者として生きる」とは、どのようなことですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文中からそれぞれ抜き出さない。(5点×4)

(10) この場面が主に描かれているメロスの心境について述べたものとして、適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア 常に信実と正義感にあふれている。
イ 人を疑うことを知らず純粋である。
ウ ふて腐れてなげやりになっている。
エ 邪悪な生き方に強く憤慨している。

解説

(1) ①「やがて殺されなければならぬ」人物である。
②メロスが自分を叱って言ったのだから、メロス自身を指す言葉である。

(2) 直後に「王の思うつぼだぞ」(13行目)とある。「王は私に、ちよつと遅れてこい、と耳打ちした。」(36行目)とあるので、セリヌンティウスとの約束を守れなくなる自分に向かつて、メロスが言った言葉である。

(3) 直後の「愛と信実の血液だけで動いているこの心臓」から、メロスの肉體も精神も「愛と信実」に満ちていることが分かる。

(4) 友への信実の証明のために走り続け、訓練にも打ちかかってきたが、「このだいいじなときに、精も根も尽き」、一家もろとも笑いものにされることを受け、「よくよく不幸な男だ」と嘆いているのである。ウは「努力が足りなくて」が誤り。

(5) メロスがなげやりな気分であったことを押さえる。「ふて腐れた根性」は、不平からどうなつてもいいと思う様子を表す。

(6) 直前の「君は、いつでも私を信じた。私も君を、欺かなかった。」二人の間に「信実」があり、これを疑うことのとたとえたと解釈できる。

(7) 10行目の「濁流を泳ぎきり、……ここまで突破してきた」や、直後の「濁流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて」に、他の行動内容が挙げられている。

(8) 「独り合点」とは、独りよがりな想像をして勝手に納得することをいう。直前の「王の言うままになつて」と、更にその前の「王は私に、……と約束した。」(36〜37行目)から考えると、イの「メロスが自分が助かるために、わざと遅れてきた」が適切である。

(9) 直後で描かれているメロスの心境に注目する。「悪徳者」として生き延びることは、自分の信条を捨て、「人間世界の定法」に流されるということである。

(10) 設問に「この場面、主に描かれているメロスの心境について」とあるので、注意する。メロスは疲れ切つて動けなくなった後、「ふて腐れた根性」が心に巣く、セリヌンティウスとの信実を守れないと諦め、「なげやりになつて」いる点を捉える。